大人が絵本を
第73回 自分のいのちを守る

司書・読書アドバイザー　安藤　宣子※
小児歯科医師　濱野　良彦※※
※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）
※※ 医療法人元気が湧く　理事ファウンダー

With コロナ 2020

花火大会、夏祭り、全国高校総体、高校野球選手権甲子園大会…暑い夏こそのお楽しみがなくなった2020年夏の阪神甲子園球場グラウンドで、「明日への勇気と活力を与えられるよう最後まで戦い抜く」と発する力強い選手宣誓を合図に、高校野球交流試合が静かに勇ましく行われました。

新しい生活様式を慣行する中でめぐり来た夏は、私たち大人でもカラダとココロが悲鳴を上げるほど厳しい季節となりましたが、高校球児による誓いの言葉と全力プレイに「明日への勇気と活力」を持つ心を戒められました。

ウイルス感染を防ぎ、自分と周りの人々のいのちを守る生活様式は、大人に限らずいまや子どもたちが理解して行動しなければならない時代です。身の安全を守る相手はウイルスばかりではありません。遡ること３年前の九州北部豪雨、２年前の西日本豪雨、昨年は千曲川が決壊した東日本台風、そして今年、コロナ禍にも容赦なく襲ってきた九州豪雨と、梅雨の豪雨はもはや新常態であって、地震と同じく備えに人知を尽くさなければならない現代ということなのです。

尊いいのちと、いのちを奪った災害を忘れない

平成30年西日本豪雨で68人の尊いいのちが失われた岡山県は、古くから穏やかな気候で災害が少なく「晴れの国おかやま」というキャッチフレーズを大事にしていた県民にとって、予期もしない大水害は晴天の霹靂でした。「自然災害はいつどこで起きてもおかしくない。決して忘れてはいけない」という多くの思いが集結して、絵本という形になったのです[1)]。

白と黒２匹のロングコートチワワ犬がクリックリの眼で読者を見つめてくるのは、西日本豪雨のとき実際に倉敷市真備町で起こった兄犬チョコと弟犬ミルクの『ブラザーズドッグ』です。災害のことを忘れないでほしいという願いと、「辛い時や苦しい時にも前を向く勇気の大切さ」を伝えたくて、元放送局アナウンサー有志によるプロジェクトの呼びかけで、クラウドファンディングによって実現された貴重な絵本なのです[1)]。

『ブラザーズドッグ』
おはなしのWA♪　作
氏嶺麻里　絵（瑞雲舎）

豪雨による土砂くずれや河川の氾濫で迫りくる水の危険をチワワの眼を通して伝えているところに、子どもへの配慮と、大水害への理解を学ぶ知識が詰め込まれています。チワワ兄弟犬と、登場する動物たちの水害との闘い、そして“あとがき”に記されたその後のお話から、作者らの願う「命の大切さ」「少しずつ前へ進む心の強さ」を強く感じられる作品です[1)]。

実際に起こった災害と、災害で奪われた大切ないのちを決して忘れてはなりません。絵本という記録を教訓にして、荒梅雨の災害に備える知識と行動を子ども自身が身に付けることができるのです。「生きていることへの感謝の気持ちは、亡くなってしまった命を忘れないこと」と、岡山県出身のオリンピックマラソンメダリスト有森裕子氏が本書の帯で綴っています[1)]。

手にするときは！

子どもに。「生きる力」Part.2

企画　濱野　良彦
構成　木須　信生※※※
※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）

子どものいのちを守る「自助」の教え

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合う「共助」、国や地方公共団体が取り組む「公助」が重要だとされています[2)]。特に、災害が発生したとき大人が身近にいなくても、子どもたち一人ひとりが自分の身の安全を守る「自助」の方法を知っておくことは重要なことなのです。

西日本豪雨の被災県にある岡山理科大学の生物地球学部准教授・佐藤丈晴氏は、砂防学の研究者として子どもたちの防災意識を高める『子どもの命を守る防災教育絵本』を、2016年発行の第１巻を皮切りに、全３巻発信しています。『土砂災害のきほん』を説いた第１巻は、平成28年４月に発生した熊本地震による災害が復興しない６月に降り続いた大雨で土砂災害が100件を超えて起こっているそのとき、刊行されました。

その一年後に刊行された第２巻『土石流のチカラ』が出版されて僅か一か月半後に、平成29年九州豪雨災害が起こったのでした。そして、最終巻となる第３巻『土砂災害とひなん』が刊行されて数週間後に襲ってきたのが、平成30年西日本豪雨です。

『子どもの命を守る
防災教育絵本』
佐藤丈晴　著
Adjectiv　デザイン
久山太市 訳

荒梅雨の豪雨が常態となった日本の自然現象です。ウイルスや地震と同じように、子どもの権利条約で規定されている「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を擁護しなければなりません。つまりは、「子どもの対処能力を引き出す環境および機会」を与えなければならないということです。

いのちの安全確保に努める

『子どもの命を守る防災教育絵本』で佐藤丈晴氏が「いちばん伝えたかったのは、避難について、つまり命の安全確保について」と述べるとおり、『土砂災害とひなん』では、土砂災害警戒情報を解説し、避難のタイミングや経路を示して、すごろく遊びでポイントをおさらいする仕掛けも施されています[3)]。土砂崩れを起こした斜面などを写真で伝えるリアルもありますが、キャラクターの登場などで子どもたちへ恐怖心ばかりを与えない工夫がありますので、抵抗なく読み進められます。

土砂災害の基本知識を知ったうえで、『土石流のチカラ』を読んでその性格を教えてもらい、そして逃げ方、避難の方法を身に付けましょう。３冊を繰り返し読みイメージを重ねることで、避難訓練のシミュレーションとなるのです。

子どもの権利を擁護するいのちの絵本

2011年の3.11東日本大震災で亡くなった大切ないのちを哀悼し忘れないよう、制作者の思いがこめられた震災ドキュメンタリー絵本がたくさん生まれています。その一作一作には、愛おしいいのちが詰め込まれているのです。そしてまた、震災を教訓とした防災教育絵本が多く発行されるようになりました。

学校では、それまでの火災避難訓練と別に、地震避難訓練や不審者避難訓練が導入されています。小学生は年齢的にも、ある程度の理解に及ぶことができるでしょう。幼稚園でも避難訓練は行われているようですが、小さな子どもたちがどのくらい自然災

害を理解し、自分のいのちを守る行動ができるのか確認する必要があります。

近年の豪雨災害を機に、水害がテーマの絵本が出版されるようになりました。絵本の出現は、子どもたちが「自己決定の促進」を高めるための防災教育支援の力となってくれることでしょう。

恐怖ばかりを募らせず、雨を甘く見ず

水害絵本が発行されるようになったのは、豪雨災害が毎年起こるようになった平成末頃なのですが、実は、半世紀以上前の1968年に大水害がテーマの絵本が出版されているのです。『まりーちゃんとひつじ』『まりーちゃんのくりすます』をご存知の方も多いと思います。小児歯科待合室の本棚にも並んでいるのではないでしょうか。この「まりーちゃん」シリーズの中では知名度のそう高くはない作品に、『まりーちゃんとおおあめ』*があるのです。

『まりーちゃんとおおあめ』
フランソワーズ　文・絵
木島始　訳（福音館書店）

大雨が降り続き、家族が団結して手早く上へ上へと避難するお話です。しかし、とうとう２階まで浸水しそうになったとき、やって来た救助の船に助けられるのです。水が引いた後は、日本各地の被災地で起こっているように、まりーちゃんたち動ける人が協力して人家の泥を掻き出して回ります。まるで、平成の日本で起こった豪雨災害の様を描いているようで、“色あせない絵本”を実感できるのです。

いのちを守るために行動するお話はとても気持ちが引き締まるのですが、シリーズ他の絵本と同じく、まりーちゃんはまったりとかわいらしく描かれているため、鬼気迫るはずの災害の怖さが緩和されているところが特徴です。そのため、小さな子どもたちに水害の危険性と身の安全を守る行動を、大人の言葉を介して伝えるツールとして適した一冊です。逆に、小学生以上の少し大きな子どもたちには緊迫感や緊張感が伝わらないので、「水害の危険と避難」を教える絵本としては不向きです。

子どもの成長・発達に応じて不安や恐怖、ストレス等の心理的混乱状態を緩和できるような援助方法を、大人がしっかりと見極めなければならないということがよく分かります。

にげることは生きること！

避難のタイミングを逃してしまうことでいのちが危険にさらされることを訴える絵本『にげましょう』は、縦15cm×横24cmと小ぶりなのですが、全125ページで構成された規格に驚かされます。絵本というメディアの総ページ数は様々ですが、基本を32ページ、短いお話で14ページ、または24ページが多くみられるところ、絵本の域を超えた「絵本」なのです。

それもそのはず、豪雨や土砂災害だけでなく、島国日本でいつ起こってもおかしくない高潮などの自然災害と複合災害からの避難方法が分かりやすく解説されているのです。巻頭と巻末に書かれた「にげることは生きること」と、「逃げる」ことへのわだかまりを解消して、大切な尊いいのちが一人でも多く助かるようすべての人に訴えかけてきます。

本文の言葉は「にげましょう」を繰り返し、ピクトグラムのイラストがシンプルで分かりやすいので、子どもたちの「自己決定の促進」を高める一冊となります。

もともとは、著者である関西大学社会安全研究センター長の河田惠昭教授が、三重県からの依頼で執

『にげましょう　特別版
災害でいのちをなくさないために』
河田惠昭 著（共同通信社）

※『まりーちゃんとおおあめ』は50年以上前の翻訳書でして、現代では不適切な表現が一部みられます。不適切表現を読み上げなくても、お話は全く変わりません。

ビブリオベイビー Bibli Baby
連絡先　福岡市南区大橋 3-2-1 2F
絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ
TEL 092-557-3272　URL http://bibliokids.jp
E-mail
安藤：bibliokids.baby1@gmail.com
濱野：hamano@genkigawaku.com
木須：nobuokisu@gmail.com

筆をはじめ、その時点で「避難」の重要性を強調する内容だったと言います[4]。それが発行直前に東日本大震災が起きたため、竜巻、火山噴火、津波、原子力災害などを急きょ加筆して、一層「逃げる」ことの大事さを理解させる内容にして2012年４月に出版されました。この既刊に、地震編を書き加えて2014年に増補発行された絵本がこの『にげましょう 特別版』で、「自助」の意識が自ずと高まる内容に生まれ代わっています。

SNSが生んだ気象絵本を一家に一冊！

防災意識を持つには、災害の起こり方や現象と避難方法を知ることが一番ですが、豪雨災害の基礎となる気象の知識を持つことも必要です。小学生くらいになると、気象のお話から豪雨を知らせ、理論的に「避難」方法を教えることで「自助」の理屈がすんなりと身に付くでしょう。

2016年11月24日に関東で季節外れの雪が降ったとき、「＃関東雪結晶プロジェクト」で話題となった気象庁気象研究所の荒木健太郎氏が執筆した気象絵本『せきらんうんのいっしょう』が発行されたのは、奇しくも平成30年西日本豪雨の直後でした。この絵本は、雲研究者でもある作者が行き詰まっていたときに描いた落書きがきっかけで生まれた秘話が、落書きの絵とともに巻末で紹介されています。その落書き「積乱雲の一生」はTwitter上で２万を越えてリツイートされ拡散されると、各メディアでも話題となり、とうとう絵本になったのです。

『せきらんうんのいっしょう』
荒木健太郎 作
小沢かな 絵
（ジャムハウス）

雲が擬人化された「積乱雲の一生」の物語を読んだ巻末はミニ気象図鑑になっているので、大人も、子どもと共に防災意識を高めることができます。「危険を呼びかける積乱雲のサイン」を知り、そのサインと声を聞いたときに、気象レーダーの雨量情報をスマホで先読みする方法まで掲載されているのですから、家族の防災教育に必読の絵本です。

明日の「もしも」に備えて

自分で自分のいのちを守る備えはウイルスだけでなく、自然災害に対する術も身に付けなければなりません。テクノロジーが発達し豊かになった時代の裏で影を潜めながら進んだ地球温暖化という代償は、人間の生き方・暮らし方、考え方に変化をもたらすことになりました。

自然災害の多い日本において、いつ、どんなシチュエーションのとき、大きな災害が発生するか分かりません。突然、災害に襲われると、大人でも恐怖心が増強し、パニックに陥ってしまいます。

歯科診療中、たくさんのいのちをお預かりしている際に自然災害が発生したら、すべてのいのちを守り抜くという重要な使命を与えられています。すなわち、あらゆる災害に備えて様々な対策を講じていなければならないということです。デンタル・コメディカルスタッフが、日頃から「自助」「共助」意識を高く維持し、いざというときに正しい判断のもと迅速に行動できるよう、絵本に教示を仰ぎましょう。

文献
1）おはなしのWA♪作，氏嶺麻里 絵：ブラザーズドッグ，瑞雲社，東京，2019.
2）政府：災害時に命を守る一人一人の防災対策，政府広報オンラインHP https://www.gov-online.go.jp　2020/08/31
3）佐藤丈晴，Adjectiv：対談 絵本　ブックデザイン，アジェクティヴデザインオフィスHP https://adjective.jp 2017.
4）科学技術振興機構：科学のおすすめ本；にげましょう～災害でいのちをなくさないために，サイエンスポータルHP　https://scienceportal.jst.go.jp　2012/08/03